

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人岡山大学

1 全体評価

岡山大学は、「高度な知の創成と的確な知の継承」の理念を高く掲げ、「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」という目的を定めている。第3期中期目標期間においては、世界のリーディング大学に伍して、徹底したガバナンス改革の下、国際社会や地域と連携した教育、異分野融合科学や医療等を中心とした研究、並びに社会貢献の全ての分野で、社会のイノベーションを先導する真のグローバルな教育・研究拠点として輝くことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、国際共同研究の強化を図るとともに、研究成果の技術移転を積極的に推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 先進科学分野、国際連携分野等で活躍し、持続可能なグローバル社会の構築に資する人材の養成を目的として開設したマッチングプログラムコースを発展・拡充し、英語による学位取得も可能にしたグローバル・ディスカバリー・プログラムを開設しており、アジア、北米、欧州、アフリカ等から第1期生を受け入れている。（ユニット「アクティブ・ラーニングの導入や全授業科目の体系的構造化など大学教育の質的転換を通じた『学びの強化』の実現」に関する取組）
- 岡山大学における「研究の強み」としての基礎物理学、生命科学研究を強化・発展し、俯瞰的な立場から研究領域を貫く新しい研究分野の確立を目的として「異分野基礎科学研究所」を設置して、海外研究者の招へいや研究所教員・大学院学生の積極的な派遣を通じた国際共同研究の強化に取り組んでいる。（国際共同研究数：27件（平成28年度）→61件（平成29年度））（ユニット「異分野融合科学の拠点形成」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ SDGs推進体制の構築

国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献するため、SDGsに関する岡山大学の行動指針を策定し、SDGsの達成に向けた取組事例集を公開しており、国連大学サステナビリティ高等研究所等とSDGsをテーマとした「RCE第1回世界会議」を開催している。平成30年2月には、SDGsの達成の観点を取り入れた大学運営を全学的に進めるとともに、地域及び国際社会とのより一体的なパートナーシップ構築のための取組を推進することを目的として、岡山大学SDGs推進本部を設置している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 技術移転成果の確保

保有する権利化済み特許(700件超)の適正化を進め、成果が見込めない約70件の廃棄を決定するとともに、国内技術移転機関4社、海外技術移転機関2社との連携により研究成果情報の海外配信を行う等の取組を行った結果、大型技術移転(契約額1,000万円以上)を含め、技術移転による知的財産収入は3,233万円となっており、年度計画【81-1】に掲げる目標である「年間技術移転収入1,910万円」を著しく上回っている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開等や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される

○ ミャンマーにおける留学生増加に向けた取組の推進

日本全体の大学への留学者の増加を進めるため、ミャンマーに「岡山大学日本留学情報センター」を開設し、日本留学フェアや国立六大学Academicセミナーを開催するなどミャンマー人留学生受入れ促進のための取組を推進しており、ミャンマーからの日本の大学への留学者数が1,323人（センター開設以前の平成25年度：653人）に増加している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 中国・四国地方における研究シーズ実用化に向けた体制強化

「橋渡し研究戦略的推進プログラム拠点」では、中国・四国地方のアカデミア等を随時訪問し、シーズ応募希望研究者との個別面談や相談（延訪問日数24日、個別相談件数54件）を開催し、応募シーズ数118件と前年度のほぼ同数を確保した結果、拠点外シーズ割合が64%（対前年度比16%増）へ大幅に増加するなど、中国・四国地方の大学、病院の研究シーズを実用化へつなげるための体制の強化を図っている。

○ フェーズⅠ 治験病床での臨床試験の実施

第Ⅰ相試験（フェーズⅠ：ヒトに初めて投与するなど初期の試験）に対応した治験病床6床を稼働し、平成29年度末までに24件、延96名の患者に治験を実施するなど、臨床試験の適正な実施を推進している。

（診療面）

○ 国際化対応の推進

診療科等と連携・協力して外国人患者の治療支援を行うために国際診療支援センターを設置しており、診療面での国際化対応を進めるとともに、一般財団法人日本医療教育財団による「外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）」を受審し、国立大学附属病院では全国で3番目、中国・四国地方では初の認証機関に指定されている。

○ 高難度な臓器移植医療の実現

臓器移植は順調に実績を重ねており、肺移植では脳死と判定された6歳未満の男児から提供された両肺を1歳の女児に移植、脳死肺移植では国内最年少となる手術に成功、また、脳死患者から提供された左右の肺の上部を組み合わせ、一つの左肺として移植する脳死肺移植手術に世界で初めて成功するなど、高難度な臓器移植医療を実現している。

（運営面）

○ MBO（目標管理）による病院経営の改善

経営戦略会議において、病棟及び診療科ごとの稼働状況を分析・確認し、病棟・診療科へフィードバック、また、平成30年度診療報酬改定において一般病棟の「重症度、医療・看護必要度」の基準が変更になることを見据え、診療科ごとの目標を設定して、病院全体として安定的に基準を満たせるように体制整備に努めるなど、MBO（目標管理）を実施し、各科の目標達成状況をチェックし、安定的病院経営に努めている。